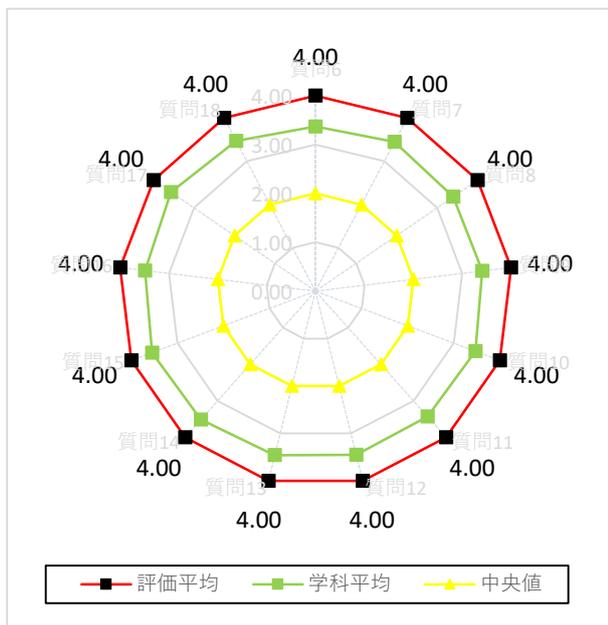
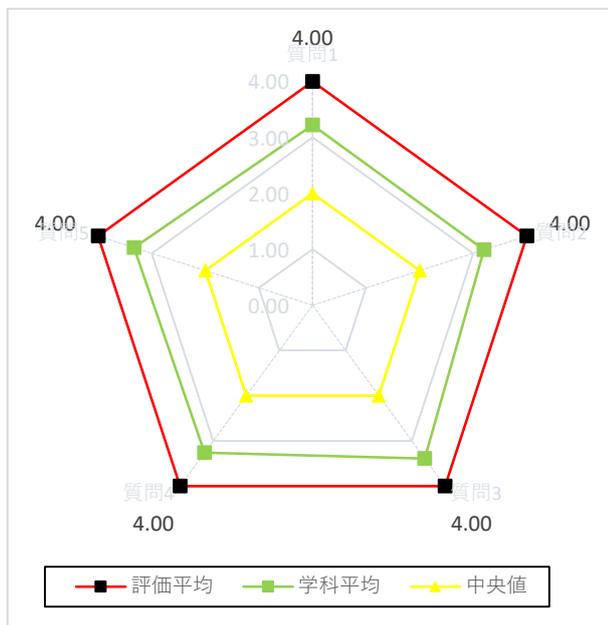


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう（初年次教育含）	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

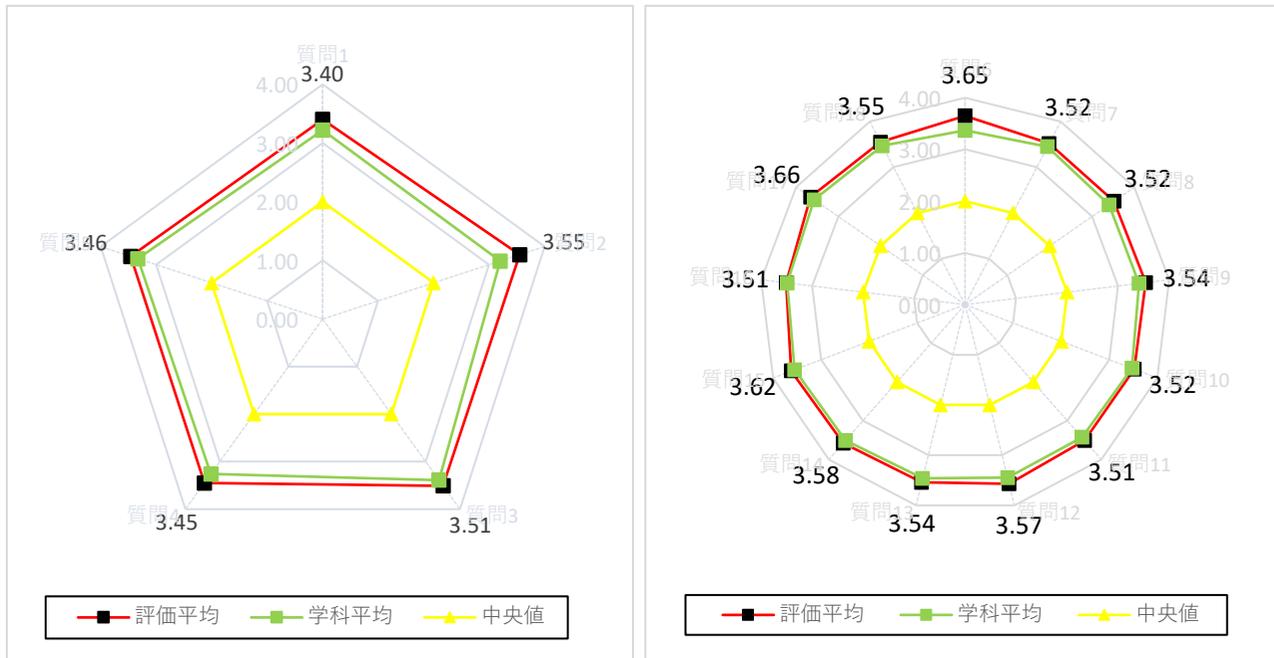
初年次教育の中で学生とのコミュニケーションを意識した講義を実施できた。

(3) 次年度に向けての取り組み

新入生の学業や大学生活における不安さを解消するために親身になって講義を展開したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学実習	71名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

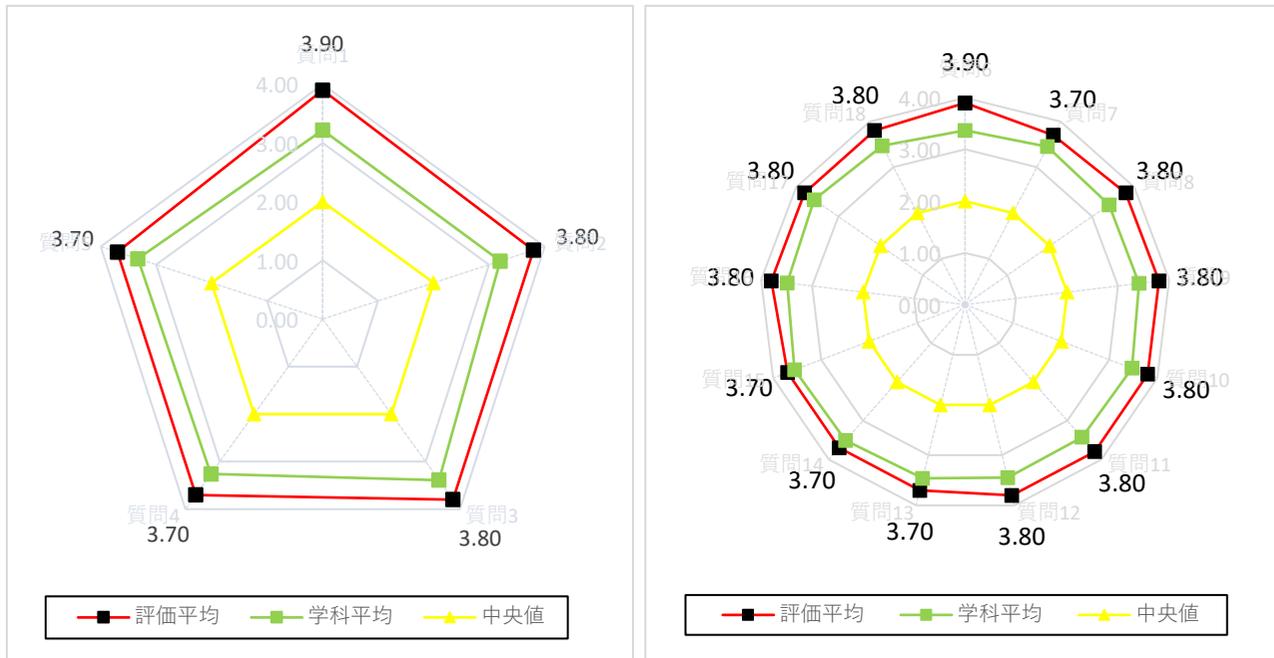
機器を使用して身体測定を実施することで、身体のしくみを実感できるように工夫している。

(3) 次年度に向けての取り組み

1年次で修得した生理学の知識と、実習内容を関連付け理解を深められるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学実習	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

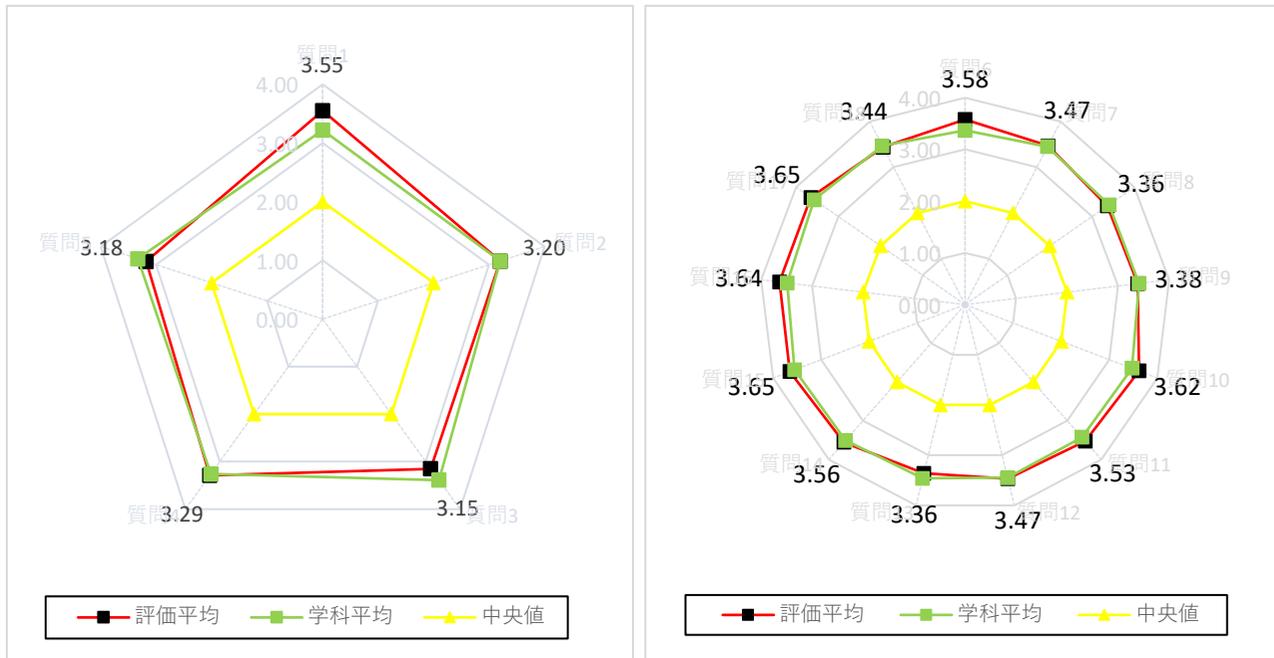
1年生で学んだ講義内容の応用および理学療法とのつながりについて講義を展開した。特に実際に触診や動画などを応用して、臨床実習につながる意識を持って実習を実施した。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も前後の授業のつながりを意識しながら講義を展開する予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学 I	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

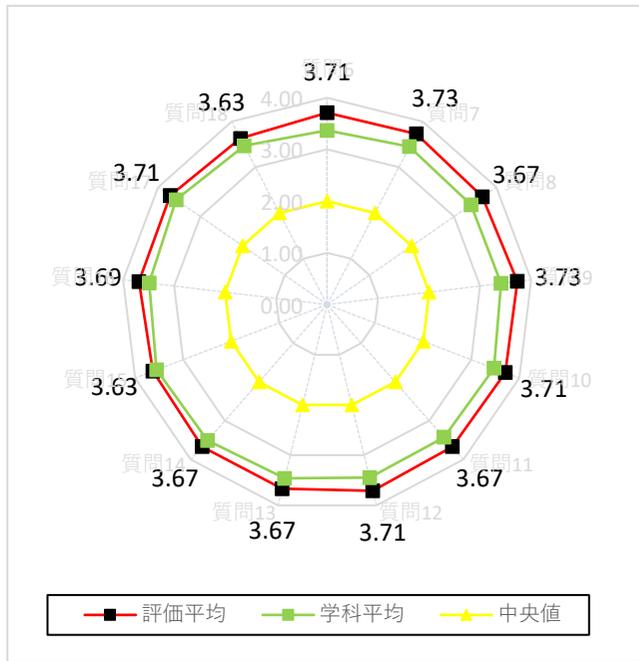
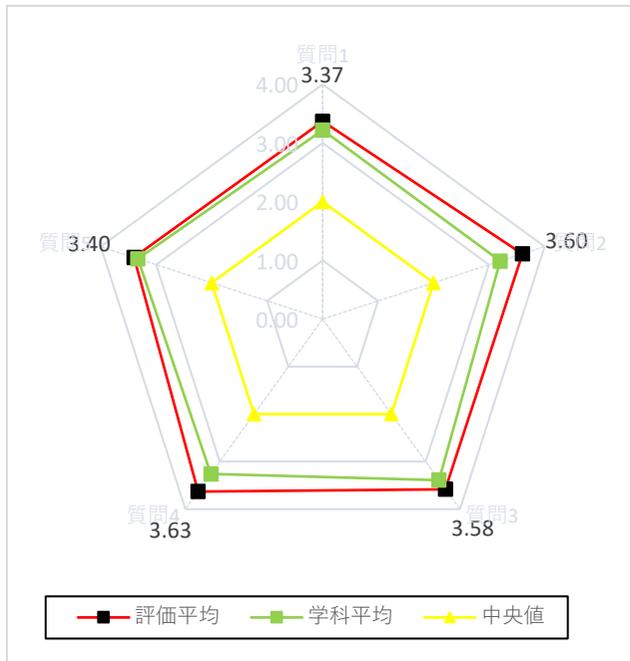
科目への興味や関心が若干低い。講義中に動画を流したり、臨床の話をしたりしているが、難しく感じる学生もいるかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義のペースが速くならないように、理解度を確認しながら進める。学生が興味を持って講義を聴けるように説明を工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学Ⅱ	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

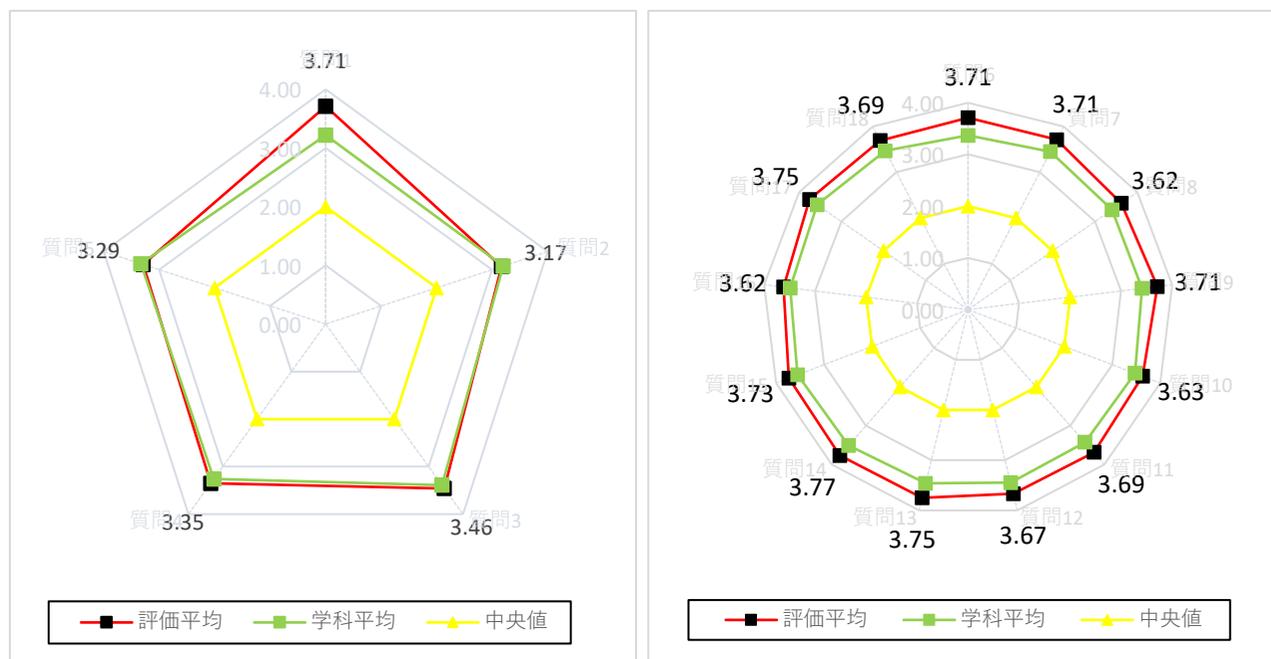
生理学Ⅰよりは、おおむね評価が良くなっている傾向にある。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義のペースが速くならないように、理解度を確認しながら進める。
 学生が興味を持って講義を聴けるように説明を工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

1年生前期必修科目であり、授業の進め方や板書、プリント活用など丁寧に説明した。シラバスについては確認したがネット上で見ている学生が少なかったので、別途予定表を作成し配布し説明した。また講義進行などに変更あるたびに予定表に書き込みをさせて確認させた。ネット上でシラバスを確認している学生は最後まであまりいなかった。1年次より人間発達学の講義が国家試験や上位学年の講義にどのように結びついていくのかを具体例を示し講義を行った。本講義は教員配置の関係で理学療法と作業療法合同で講義を行っているが、理解が乏しい学生が増えており、より自己学習の援助や学習到達度が自分で把握できるような取り組みが必要である。

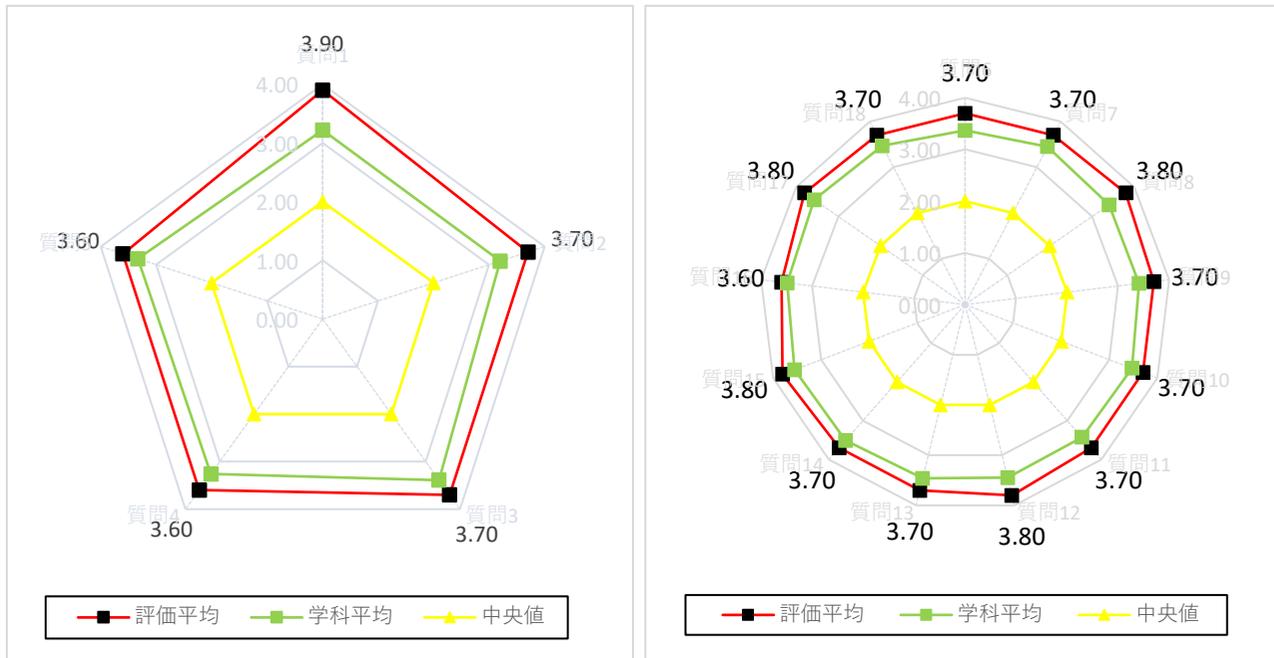
い。その他、概ね良い高い評価となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

履修者が多いが、学生の理解を把握するため、数回にわけてノートチェックなどを行った、講義への理解が乏しい学生へのフォローに努めたい。また学習意欲の高い学生については国家試験問題を使って講義内容のアウトプットをはかりたい。シラバスの活用については、初回講義時だけでなく、随時シラバスを使い講義の進捗状況を説明する。また記述式の試験問題に苦勞している学生が多くいたので、講義中も文章でまとめる機会を増やしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学 I	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

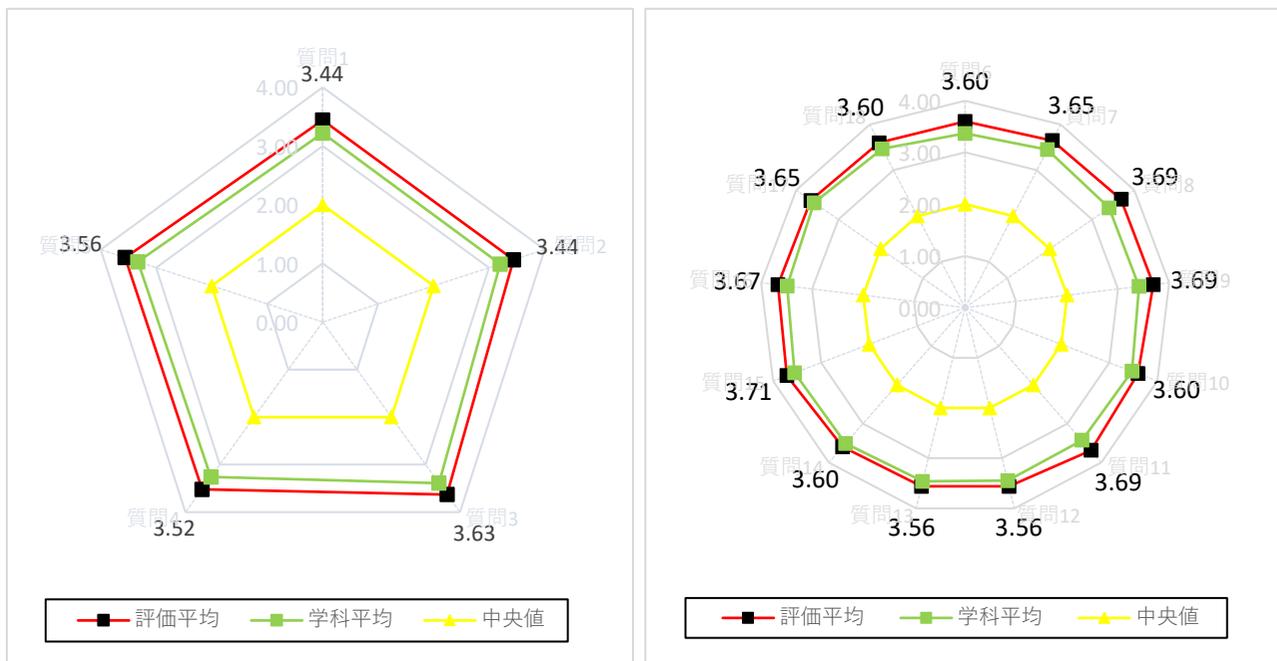
講義内容がやや難解なテーマも含んでいるために例え話や身近な話題もいれつつ説明を実施した。

(3) 次年度に向けての取り組み

複雑な点や難解な点は何度も説明を繰り返しつつ、知識の習得に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅱ	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

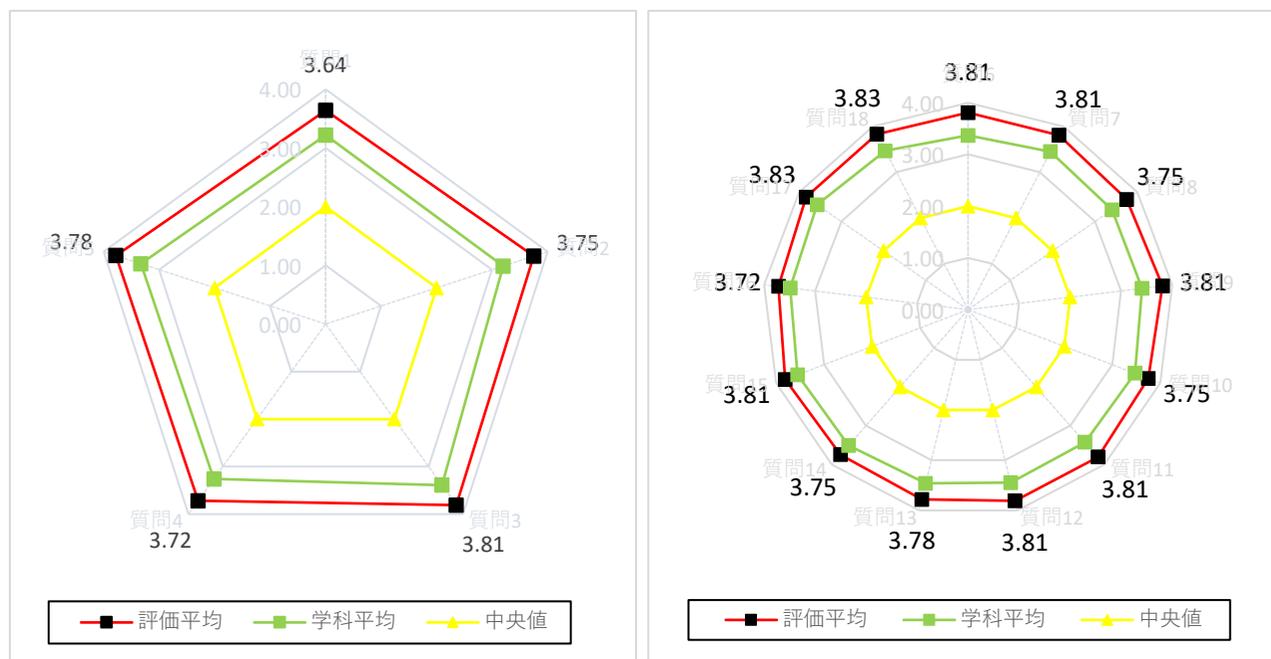
平均3.61と今年度もおおむね良好な結果であった。実技を交えた回は2コマ連続で講義をしたため、実技の回を欠席すると欠席回数が増えた。今年度より2人で講義を担当することが出来るようになり、理学療法・作業療法合同の講義であるが、学生の理解度は深まり、より細やかに学生に対応することが出来た。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義は実技を交えての行った。クラスの人数が多いと教員と学生の双方向的なやりとりが難しくなる場面もあったが、質問しやすい環境を心掛けている。また自己学習が欠かせない科目でもあるため、授業で分からないことや実技で不安のある部分などを援助していける取り組みを行っていかなければならない。また自己学習が出来ない学生についてはフォローが難しいと感じる場面もあったが、複数教員で担当出来るようになったため、工夫しながら習熟度アップをはかりたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

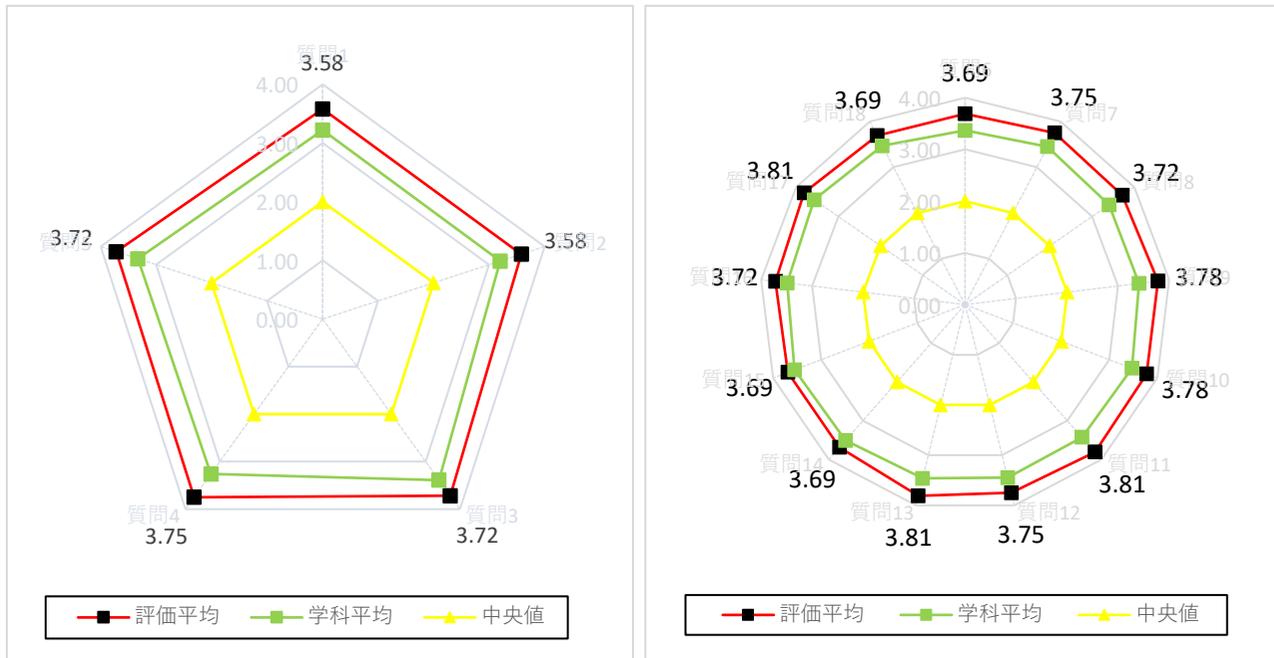
全体的に学科平均よりも良い評価を得られている。専門的な知識から教科書以上の最新知見も含めた講義を展開していく。

(3) 次年度に向けての取り組み

例年同様、最新知見を論文を含めて紹介していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学演習	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

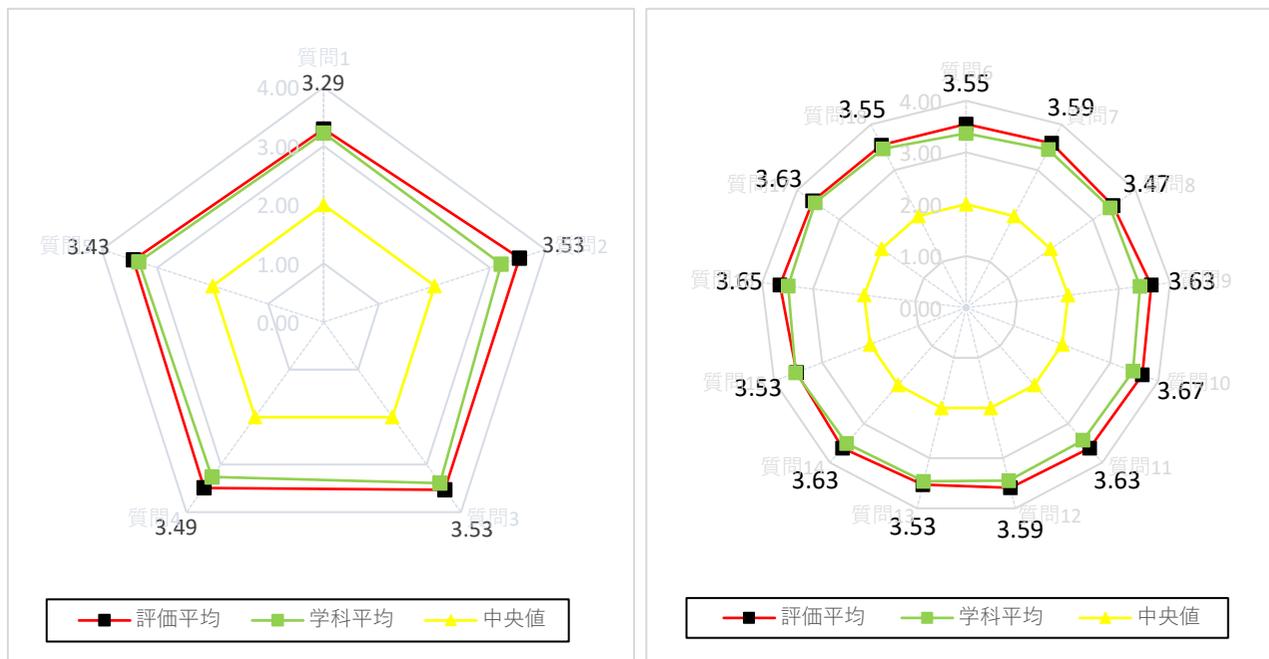
全体的に学科の平均点をクリアしている。シラバスについての説明が不足していると感じた学生もいるため、次年度は改善する予定である。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスについての説明や学生への実習への対応など、改善する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション医療	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：98% (49/50) .

総合評価 (Q18) で良い・やや良い：92%，悪い・やや悪い：8% (4/49) .

シラバスについての説明 (Q6) で悪い・やや悪いと回答した学生が3名存在するが，第1回目の講義でシラバスのコピーを配布して説明を行っている。

学生の質問に対する対応 (Q14) で悪い・やや悪いと回答した学生が3名存在するが，全講義を通じて質問は皆無であった。

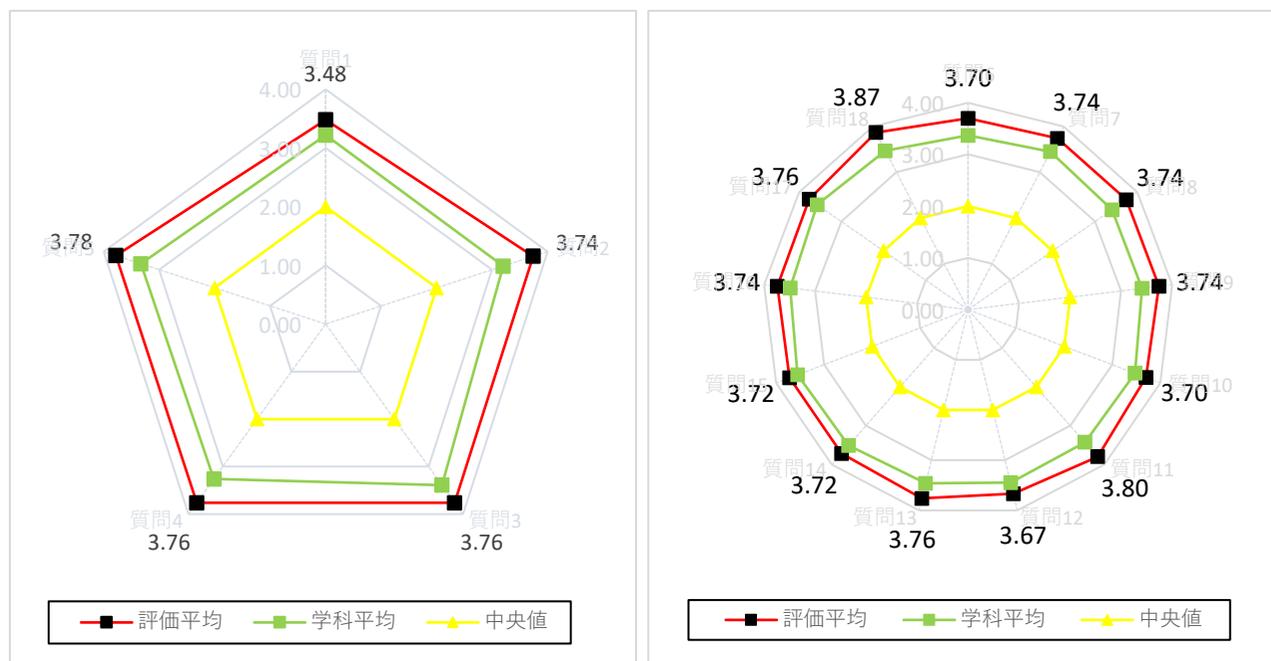
(3) 次年度に向けての取り組み

概ね良好な評価を得ている。

常に講義内容のブラッシュアップを行い準備する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率93.9% (46名 /49名)であった。

Q. 18「総合評価」では、「良い・やや良い」が46名 (/46名)であった。

Q. 19-25 (設問設定ナシ) への回答が1名認められた。

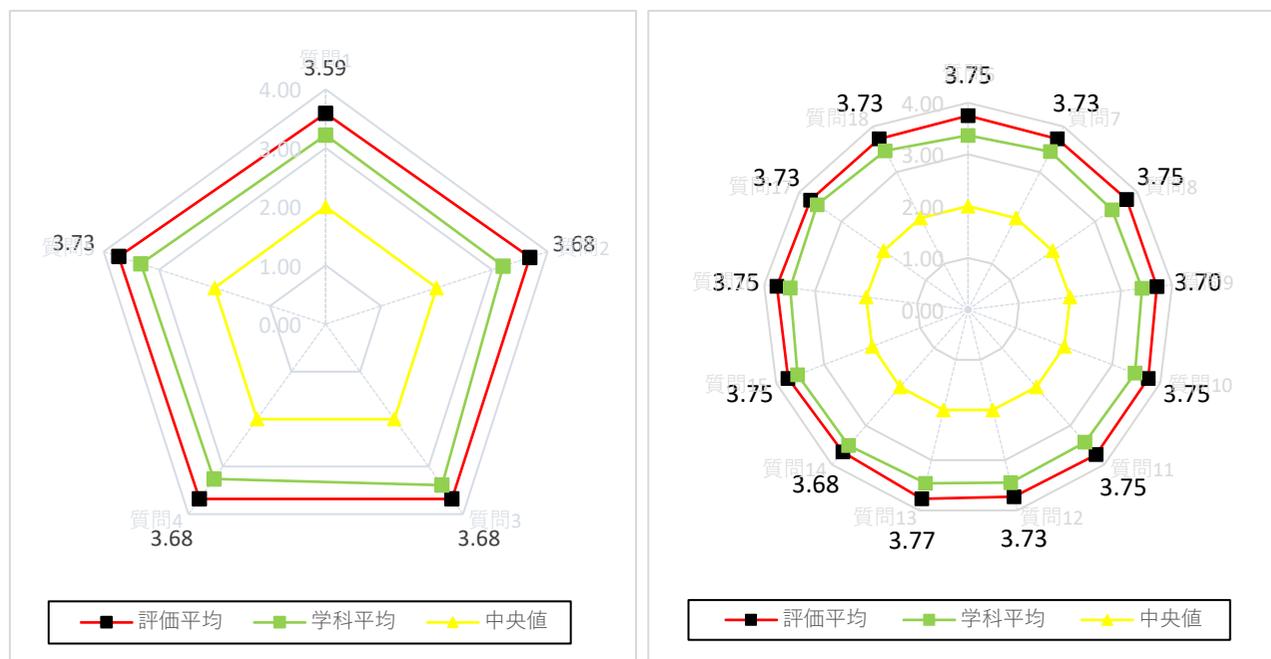
(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は概ね良好な評価を受けている。

次年度の講義に向け、講義内容の点検を行い、ブラッシュアップを図り準備を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学実習	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：90.0% (44/49) .

総合評価 (Q18) で良い・やや良い：93.2% (41/44) , 悪い・やや悪い：6.8% (3/44) .

Q19以降の質問に回答した学生3名.

質問への対応 (Q14) で悪い・やや悪いと回答した学生が3名存在するが、全講義を通じて学生からの質問はなかった.

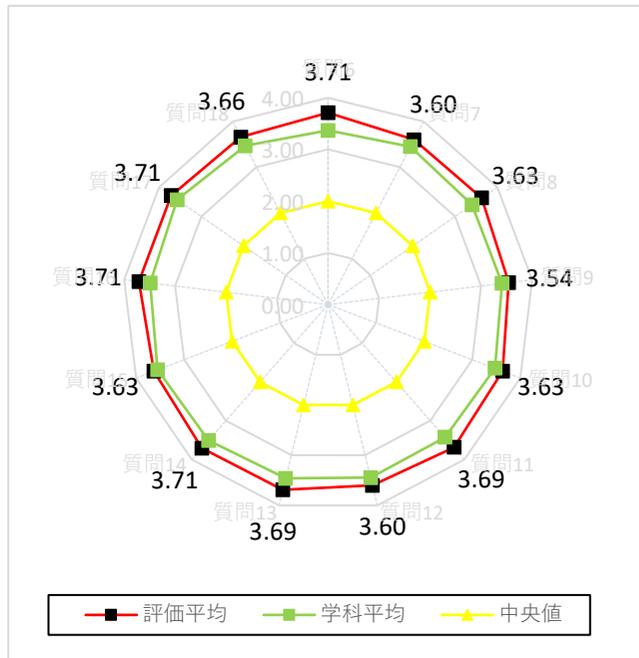
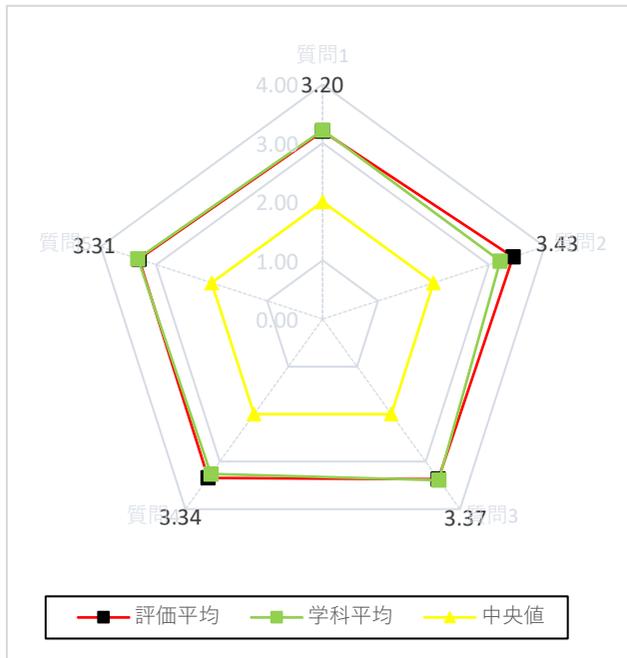
(3) 次年度に向けての取り組み

概ね良好な評価を得ている.

講義内容のブラッシュアップを行い準備する.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎理学療法学	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答率：97.2% (35/36)。

総合評価 (Q18)：良い・やや良い：97.1% (34/35)，悪い2.9% (1/35)。

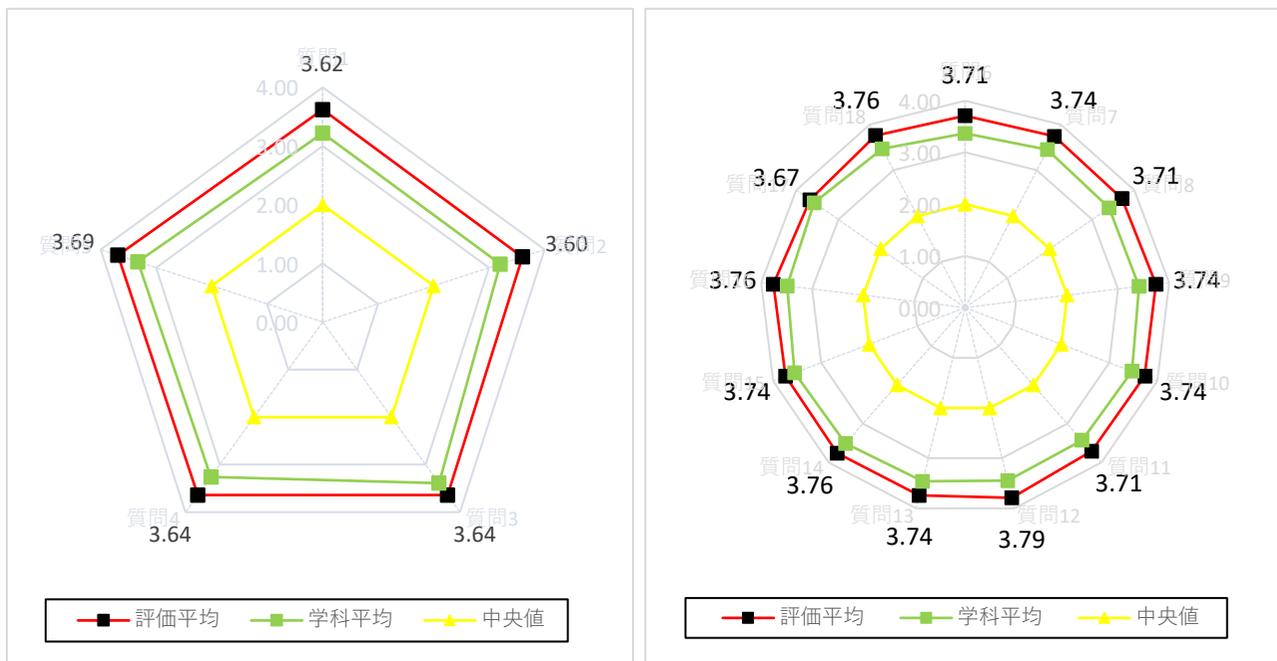
その他，複数名が悪い・やや悪いと回答した項目：興味・関心が持てる工夫 (Q8) 2名，わかりやすい工夫 (Q9)：3名，公平な対応 (Q15)：2名，双方向授業 (Q16)：2名。

(3) 次年度に向けての取り組み

概ね良好な評価を得ている。
講義内容のブラッシュアップを行い準備する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法管理学	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

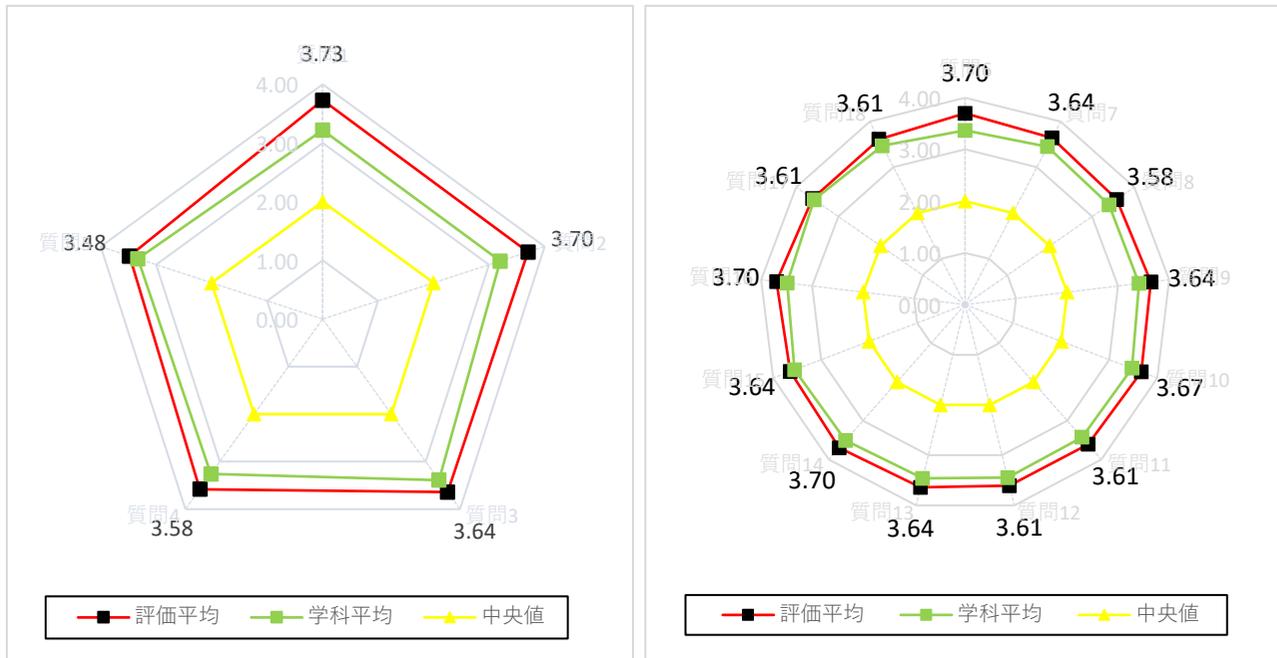
興味、関心が持てるような題材を用いて講義をしている。

(3) 次年度に向けての取り組み

グループワークや実習の経験を踏まえた感想など、もっと実践的な内容を取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

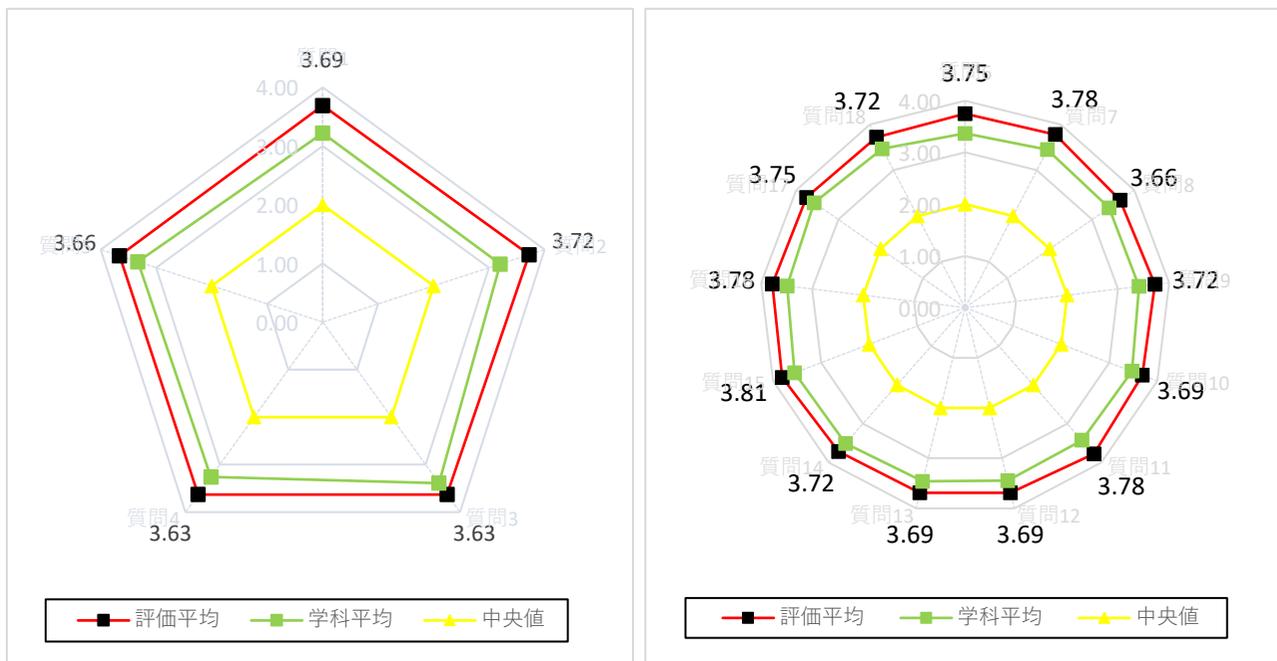
- ・総合評価（質問18）は、3.61（最高値4）であった。
- ・学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
- ・概ね良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害理学療法学演習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

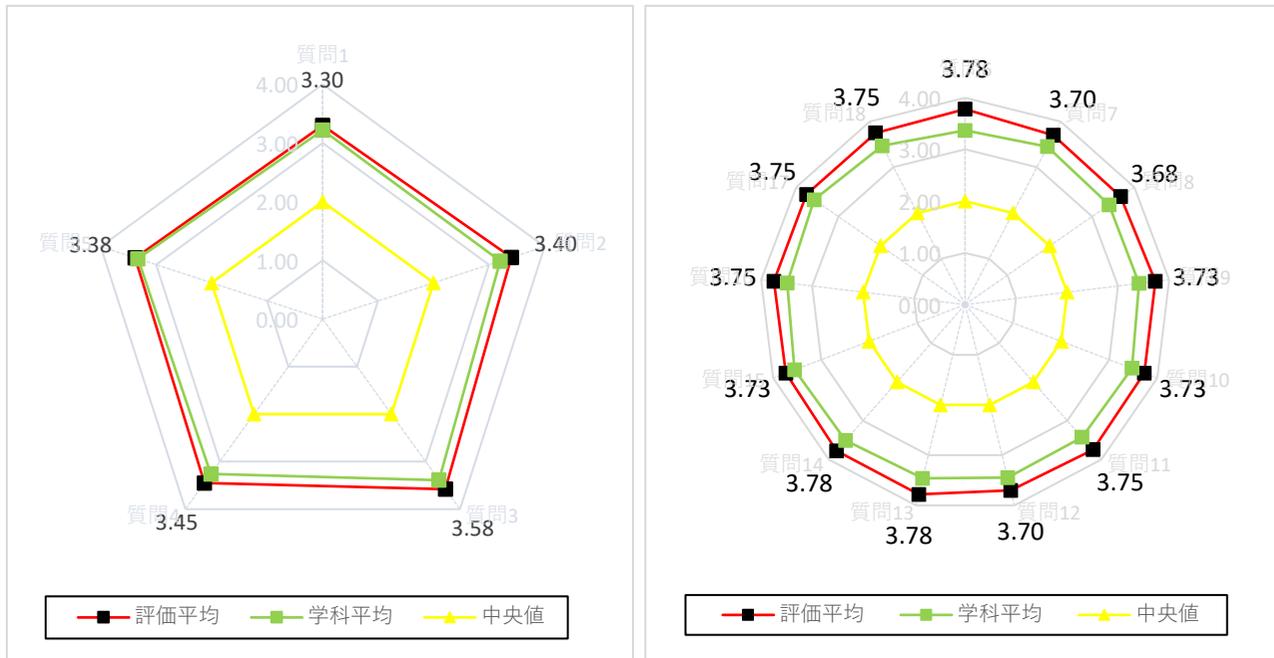
- ・総合評価（質問18）は、平均3.75（最高値4）であった。
- ・学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。
- ・概ね良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。
- ・また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

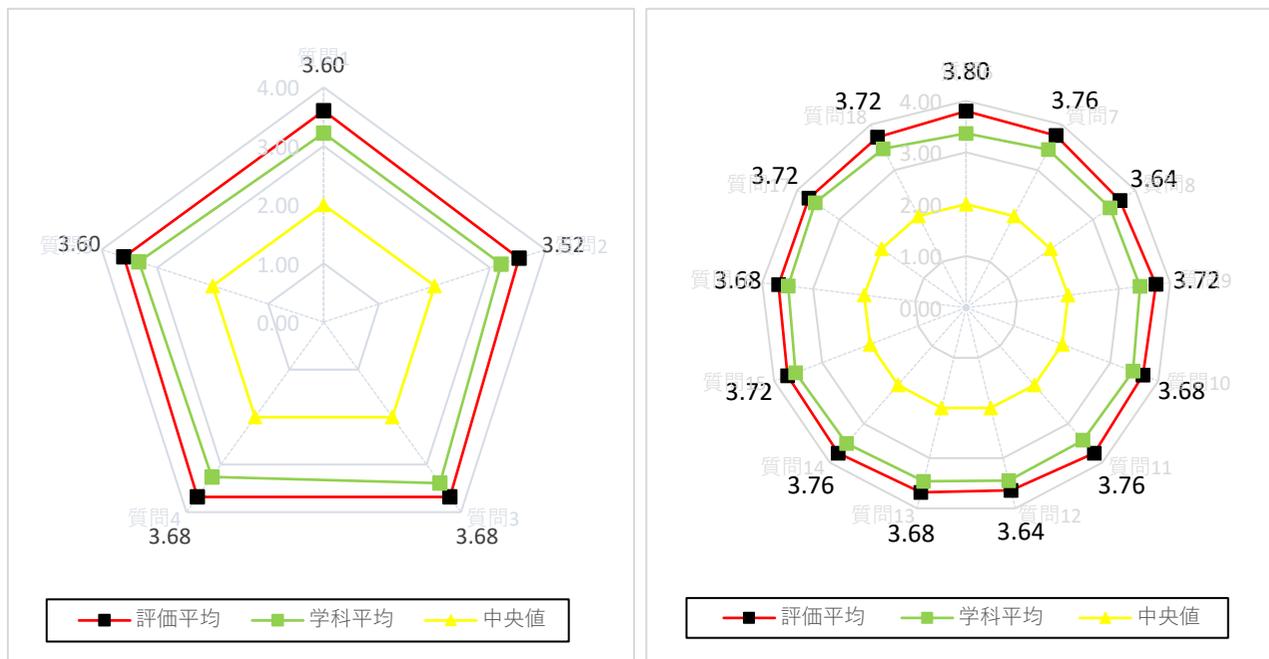
シラバスはオンライン上で確認している学生は少なかった。初回講義時に別途資料を作成し、説明を行った。また講義の進行で予定が変わった際もその都度説明を行った。最後までオンラインでシラバスを確認した学生は少なかったようだ。発達障害児者を見たことがない学生も多く、映像などを使用してイメージを持たせながら講義を行った。おおむね全ての項目で学科平均値程度であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

定期試験は記述式で行っており、試験で点数が取れないと自己評価が低くなることもあり、試験後の解説なども講義の中に取り入れていくようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

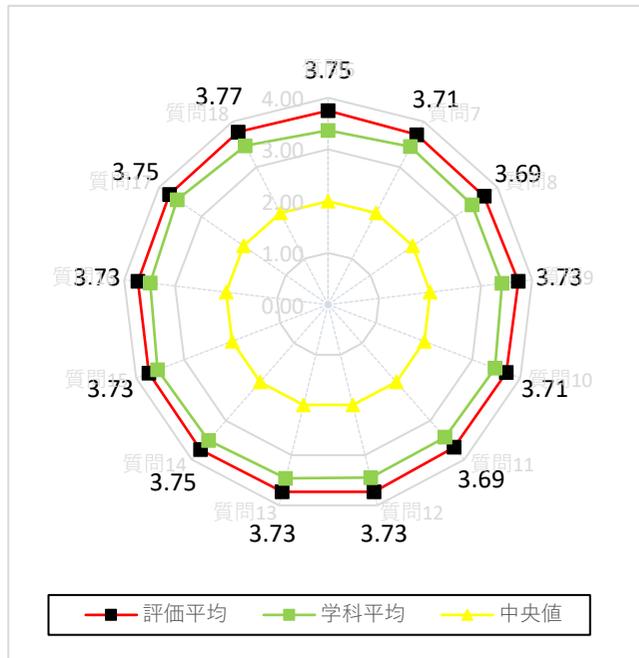
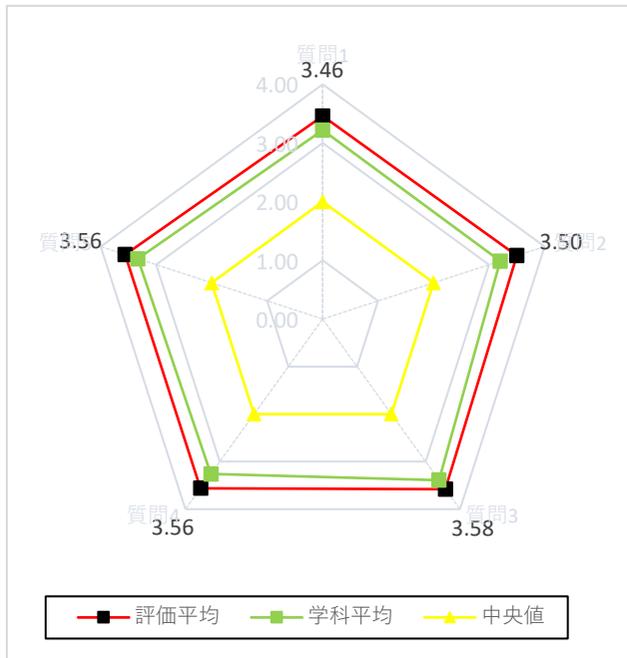
全体的に学科平均値をクリアする評価を得ることが出来た。まだ改善点があるため、次年度の授業に活かしていく。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体的に点数を改善する余地が残っているため、全体的に講義内容を再検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

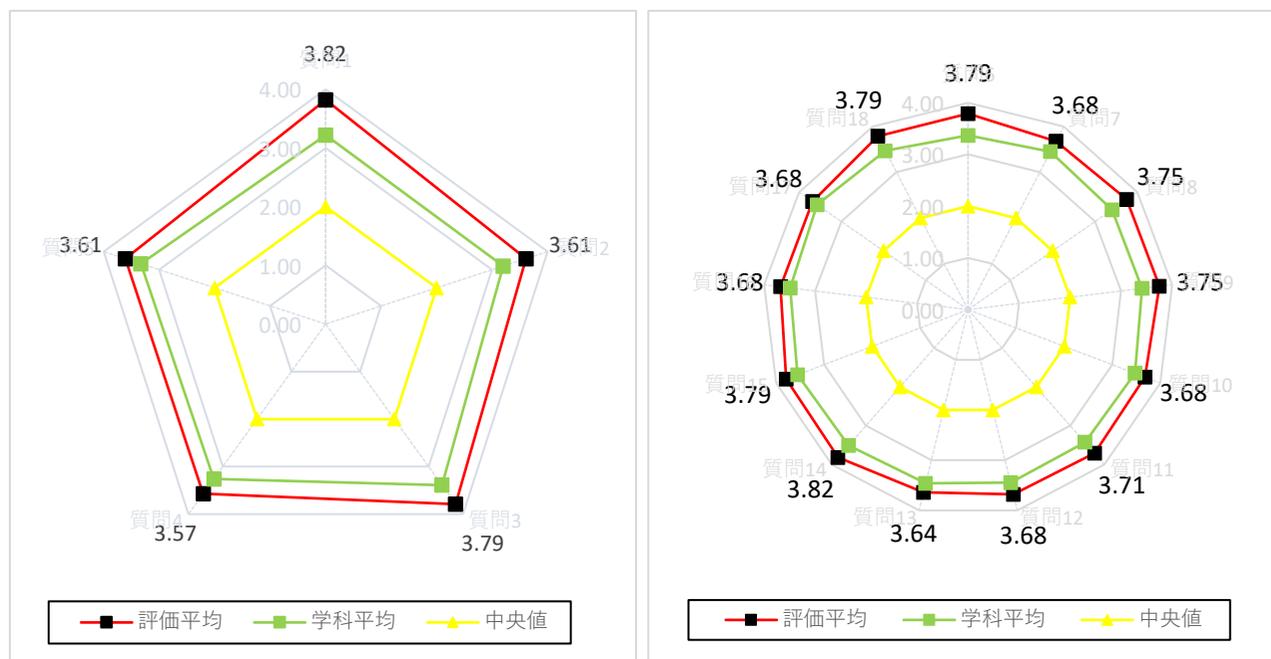
回答率：98.0% (48/49) .
総合評価 (Q18)：良い・やや良い：93.8% (43/48) , 悪い・やや悪い：6.3% (3/48) .
Q19?Q25に回答した学生が2名.
Q6?Q18に悪い・やや悪いと回答した学生が3名.

(3) 次年度に向けての取り組み

概ね良好な評価を得ている.
講義内容のブラッシュアップを行い準備する.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

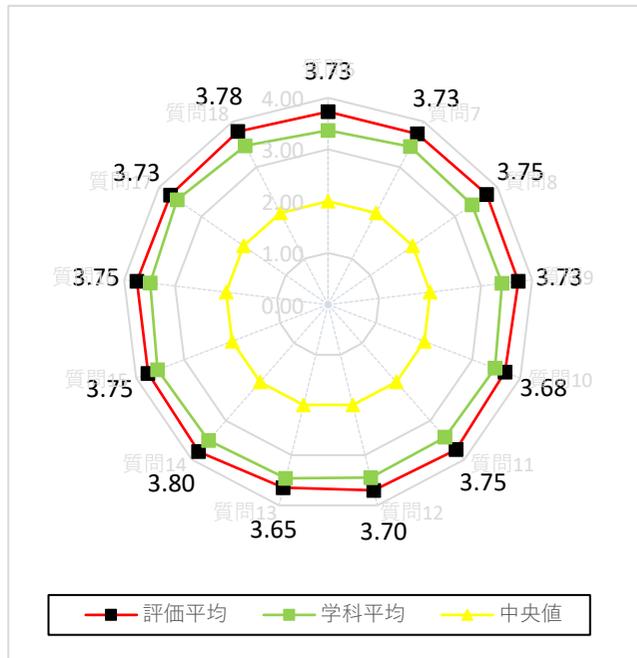
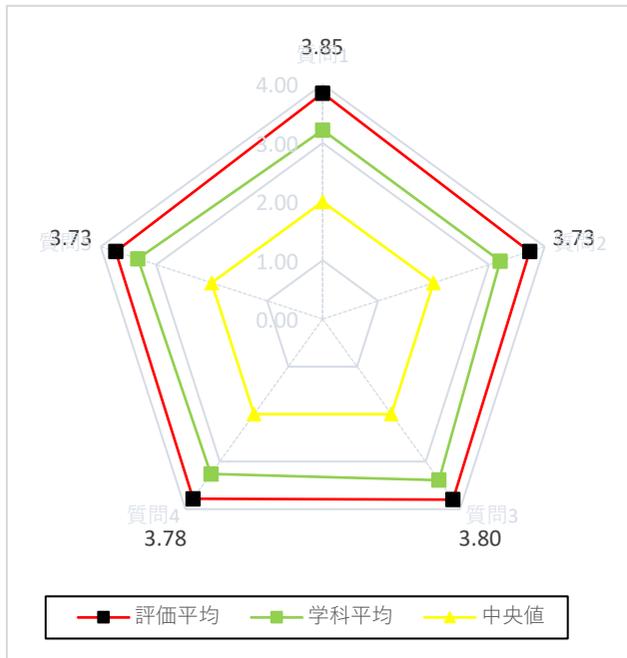
全体的に学科平均と同じ程度の評価であった。授業内容には改善の余地、特に授業の進め方などには改善する余地があるために次年度の課題とする。

(3) 次年度に向けての取り組み

前述の通り、授業の進め方に改善の余地が残っているため、もう少し講義内容の専門家および実習課題の設定を行っていく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅱ	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

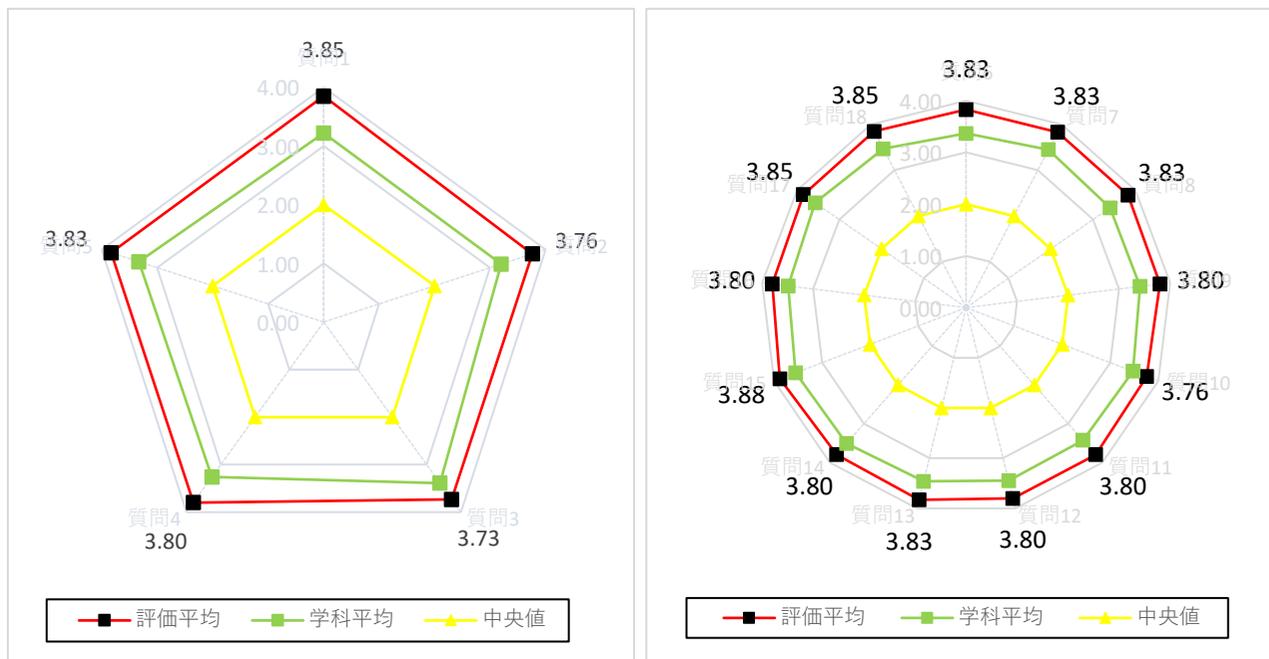
学生が主体的に取り組むことができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習の事前準備、実習後セミナーなど、学生が主体となって積極的に取り組めるようにサポートする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

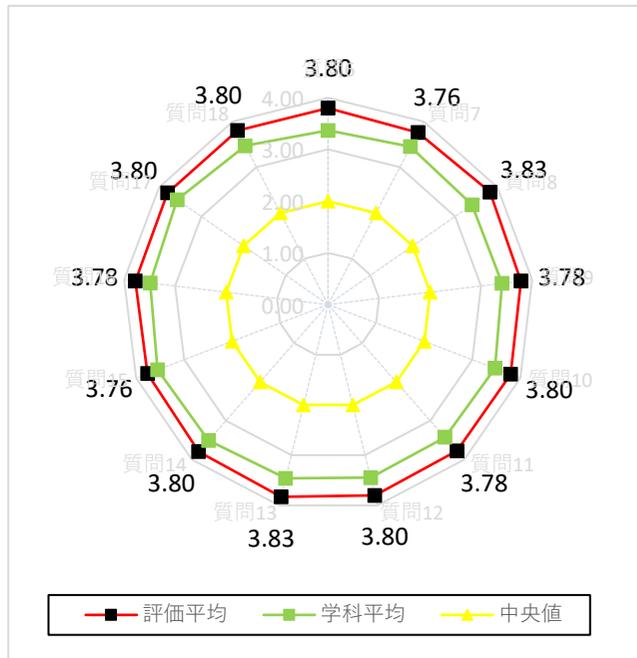
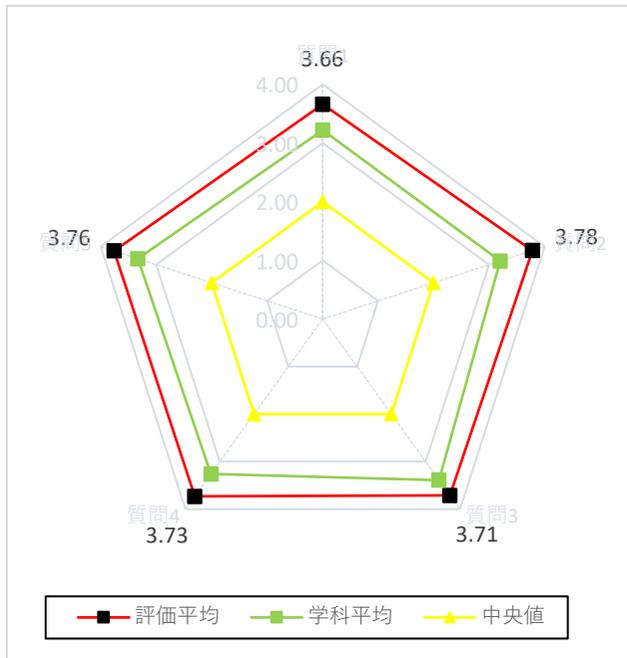
評価平均はすべての項目で学科平均を超えた。学生はゼミごとに主体的に学修に取り組み、卒業論文として研究結果をまとめ発表することが出来た。卒業研究ではゼミ配属後、3年次よりゼミ教員と学生が密に連絡を取り合い、学修を進めている。内容はゼミごとに多岐に及び、学生の学修意欲を高める場となっている。卒業研究を通して、PTとして臨床に出てからも問題意識を持って業務に取り組み、生涯学習していける基盤を形成した。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降もゼミごとに細やかに指導を行うことで、これまで学んだ理学療法知識と経験の総まとめとして、各自の研究テーマを決め研究を実施し研究論文としてまとめていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学分論Ⅱ	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

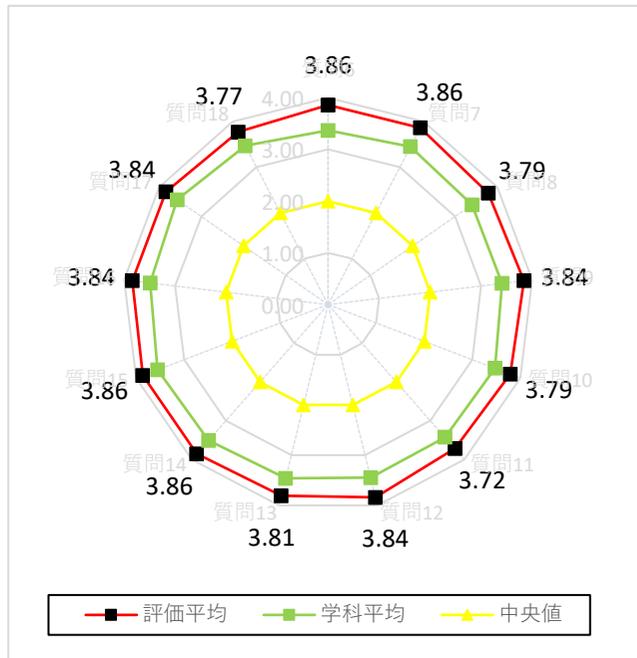
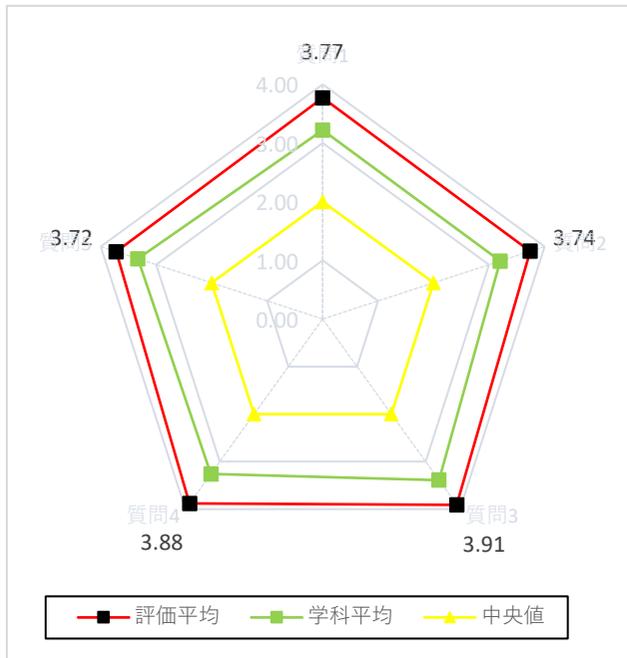
国家試験対策の取り組みを行った。

(3) 次年度に向けての取り組み

詳細な計画とその運営、成績の管理と活用が求められる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅳ-1	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

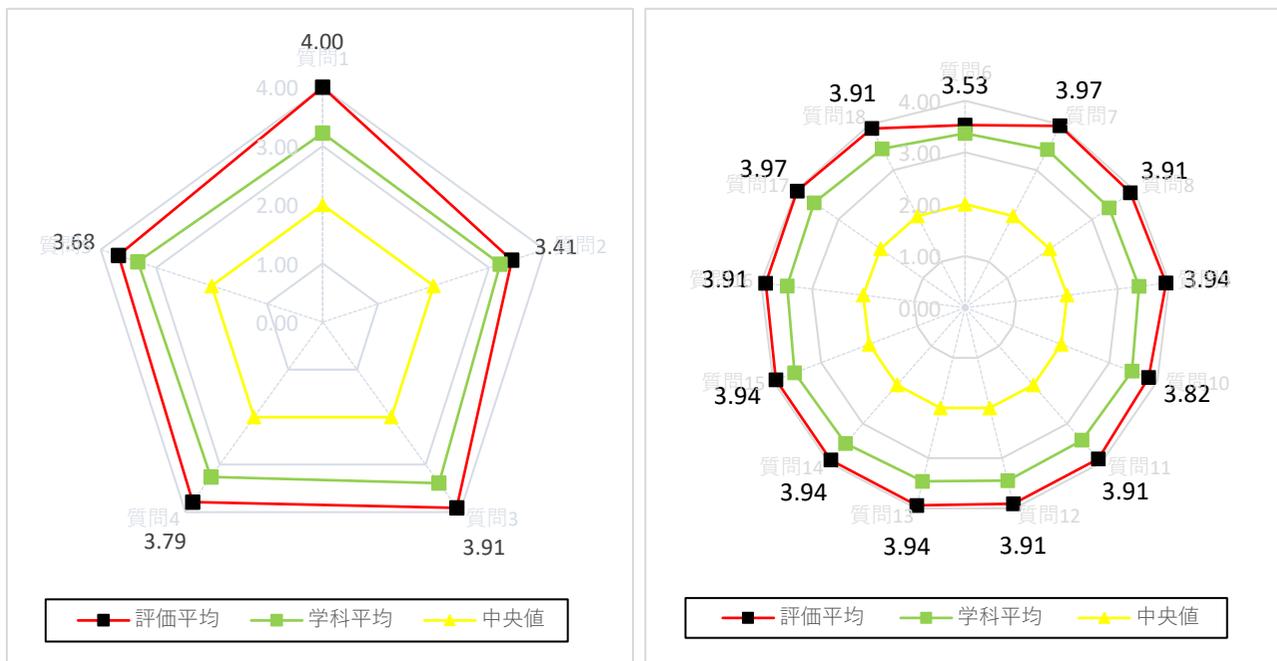
臨床実習、実習後セミナーで特に問題はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き実施する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習 I	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

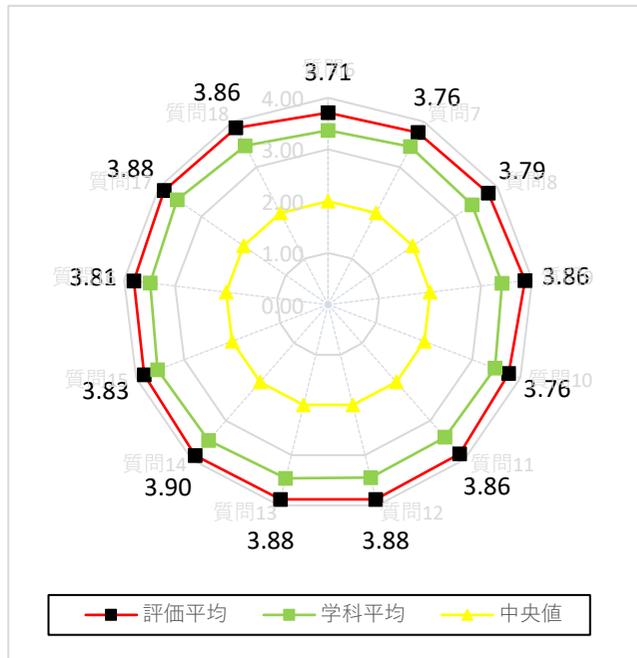
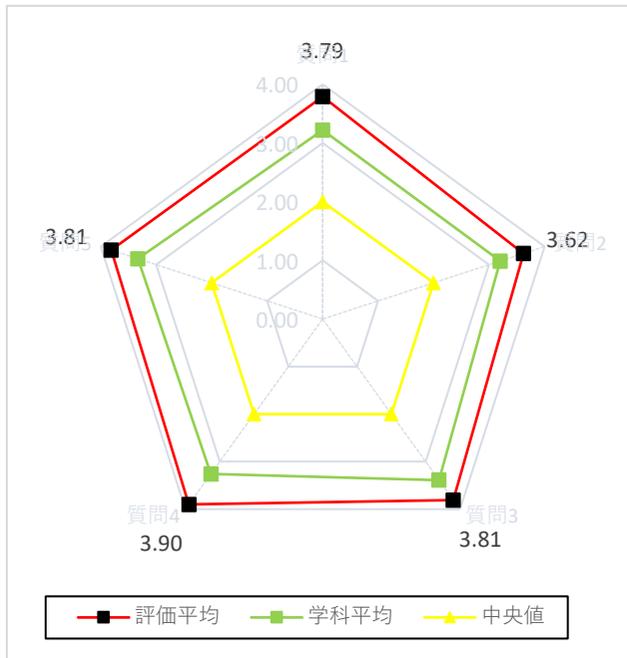
全体的には良い評価となっているが、質問2のシラバス（授業計画）の活用には改善の余地が残っている。その他は学科平均よりも良い評価であったため、今後も継続していく。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習科目であり、実習の目的などについては説明していたが、シラバスの運用については次年度以降、シラバスを開示しながら説明をより丁寧に行う必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅳ-2	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

臨床実習、実習後セミナーで特に問題はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き実施する。